



きこえとことばの教室だより

武蔵村山市立第九小学校 きこえとことばの教室
令和8年1月22日 NO.4

今年もよろしくお願いたします

新しい季節を迎えました。きこえとことばの教室でも子ども一人一人を大切にしながら学びを進めていきます。子供たちは、きこえやことばに関する困り感を抱えつつも、日々の活動を通して、少しずつ自信を育んでいます。本教室では、安心して過ごし、学べる環境づくりを大切に、言葉で伝える力や人と関わる力を丁寧に伸ばしていきます。保護者の皆様や在籍校の先生方と連携し、子供たちの成長を温かく支えて参ります。

子育て講演会より

2学期には、当教室主催の子育て講演会がありました。言語聴覚士の関口裕昭先生を講師にお招きし、『読み書きにつまづきやすい子供たちのために～多様な学びのかたち～』という題目で講話をいただきました。

関口先生は、発達性読み書き障害の当事者であり、子供と関わる言語聴覚士です。3歳のお子さんのパパでもあります。御自身の小学生時代、「読み書きができないことは、自分の努力不足だ。」とっていたそうです。高校2年生の時、「発達性読み書き障害だと診断をされ、学校に対して配慮を求めることができるようになった。」と言います。関口先生のお母様は、「絶対なんとかしよう。できることなら治してあげたい。」と思ったそうです。「しかしこの障害は治りません。自分を責めたこともありました。この経験から、自分も我が子も追い詰めないことが大切だ。」と思うようになったそうです。

私たちにできることは何でしょうか。関口先生は、「選択肢の提案、できることの整理、特性理解を進める。」ことだと言います。特に、困難なことへの理解が重要で、できることに目を向けることによって、自身も前を向くことができるようになると話してくださいました。

御参加いただいた保護者の方からは、次のような感想が寄せられました。

- ・当事者の方なので、とても説得力があった。
- ・どのような困難さがあり、どう関わると皆が幸せになれるのかを知りたい。
- ・目に見えない障害の困り具合があることを皆に知ってほしい。
- ・本人がとても努力をしていることや、感じていることを伝えられる味方でありたい。
- ・我が子だけが悩んでいるわけではないんだと少し安心した。
- ・どうか、理解ある学校、世の中になってほしい。

関口先生は、「学びの機会を保障することとは、学ぶことを好きでいるということ。」と述べておられました。私達も、子供たちや保護者の方々に寄り添える教員、味方である教員であり続けたいと思っています。

グループ活動の様子

きこえとことばの教室では、年間4回程度グループ活動を行っています。

今回は、難聴グループの活動を紹介します。

○きこえ方マップ作り



自分のきこえ方だけでなく、他者にとってのきこえ方も意見を出し合って共有しました。

○好きなこと、得意なこと発表会

視覚支援ツールを自分で使用し、発表の仕方を工夫しました。



○困ったときのお願いの仕方

○手話フルーツバスケット

○人間まちがいさがし

ゲームや話合いなどを通して、学びを深めました。

おすすめの本

読み書きが苦手な子を見守るあなたへ

～発達性読み書き障害の

ぼくが父になるまで～

関口裕昭 著

関口裕昭 著



講演会にいらして下さった関口先生の御著書です。当教室にも、(サイン入り)あります!貸し出しも受け付けていますので、お声掛けください。

今後の予定

- 2月4日(水) ことばグループ
- 2月13日(金) 会議のため午後の指導なし
- 3月4日(水) コミュニケーショングループ指導
- 3月6日(金) 後期指導終了
- 3月11日(水) きこえグループ指導
- 3月9日(月)～3月13日(金) 保護者面談期間

きこえとことばの教室のX(エックス)について

きこえとことばの教室では、ホームページやXを随時更新しております。

基本、活動の全体が分かる写真、後ろ姿、顔が分からないようにするなど配慮をします。よろしくお願いいたします。